

木の言い分⑨

－画期的なマツクイムシ防除薬剤ネマバスターのご紹介－

最近市販になった画期的なマツクイムシ(マツノザイセンチュウ)の薬剤をご紹介します。従来、マツノマダラカミキリが媒介するマツノザイセンチュウが引き起こす急激枯損症状は下記の①②が基本で、①の応用した③も一部にはありました。

- ① 早春期に樹幹注入剤を処理し、それが樹体全体に行き渡ることにより、侵入マツノザイセンチュウを殺す。
- ② マツノマダラカミキリが飛来する初夏～夏季に、地上・空中散布によりマツノマダラカミキリを殺し、結果的にマツノザイセンチュウを侵入させない。
- ③ 早春期に株元周りに粒剤を処理する。

しかし、これらの方法には下記の問題点がありました。

- ①の方法は、マツに孔を空ける為、マツそのものが痛む(幹に裂け目ができることもある)。
- ②の方法は、飛来時期が予測である為、必ずしも的確に防除できず、また、年々環境への配慮から散布がしづらくなってきた。
- ③の方法は、農薬登録上、拡大解釈の懸念があり、また、施用量も経験に依存している。

－ネマバスターの特徴－

- マツを全く痛めない施用方法で、その方法も簡単。
- マツノザイセンチュウへの持続性は約1年あり、適期(3～4月)に施用すれば確実に効果を示す。
- マツノザイセンチュウに卓効なのはもちろん、実用上は、1～2ヶ月間ハダニ類・スリップス類・アブラムシにも効果が認められる。
- 飛散リスクが少ない。
 - ・有機リン剤特有の周期が漂いますので、施用後すぐに埋めるようにしてください。
- マツが根から吸収して樹全体に行き渡るのが非常に速い(約1カ月)為、春期防除を逸した場合も応急処置ができ、また、「若干症状らしき様相を呈した」マツの治療的防除も「可能性」がある。
 - ・但し、あくまで「可能性」で、根からの水分吸上能力がマツに残っていることがポイントです。松脂が全くでなかったり、枯損した状態での治療は不可能です。
 - ・「若干症状らしき様相を呈した」マツの治療的防除を行う場合、マツの所有者の方に、「マツクイムシにかかれば基本的には枯れる」ことを説明しご理解を頂いた上で、治療されるか?のご判断を仰ぎましょう。
 - ・高濃度の有機リン剤を施用しますので、施用マツ周辺の樹や作物の根から吸われて、影響が出る場合があります。特に食用作物(ウメやミカン等)には注意が必要です。(落葉や葉先枯れ残留等)



産卵跡



幼虫



蛹



成虫



マツノザイセンチュウ

マツノマダラカミキリ幼虫・蛹・成虫と、それが媒介するマツノザイセンチュウ
※農薬ラベルや資料をよく読んでから、ご使用下さい。

樹木医 長谷川正文
(株) 向陽アグロガーゲニングホームディンクス